

事業報告書 (令和 2 年度)

事業名 人と保護犬・保護猫がともに暮らし幸せな社会を築いていくための啓発プロジェクト

団体名 NPO 法人 犬猫愛護会わんぱーく

担当者名 吉田 照明

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

ア-1. パネル展

日 時 2020年9月26日（土）、27日（日）
場 所 岡山県総社市西郡 農マル園芸吉備路農園
参加対象者 一般来場者
人 数 約500名

総社にある農マル園芸吉備路農園にて「啓発パネル展」を開催いたしました。

テーマは「終生飼養」 実は一昨年のパネル展に用意したのですが台風の為半日で撤収したものです。

まだまだ理解が進んでいない事例を見聞きし、より多くの方により深く考えて頂きたいテーマとして、もう一度投げ掛けたいと思ったのです。

愛護センターに収容された不安げな犬猫達から具体的に数字化された「わんぱーく譲渡数」「岡山県下の殺処分数」そしてご縁を頂いて幸せを掴んだ犬猫達の笑顔へと進路は続きます。

涙ぐまれた方々が次第に笑顔へと。「あなたたち良かったね〜」「可愛い！」「見てみて笑ってる！」等々写真の前で立ち止まっては会話が聞こえます。

そしてパネル展名物の「幸せモザイクアート」前ではアチコチ探して「あったあった！ほらここに！」と我が子を見つけて歓声が。

来場者の中に わんぱーく初期の里親さんがおられ、今年2月に亡くなった我が子を見つけて「この子の写真が1枚しかないのよ。全部水に流されて…」と声を詰まらされます。

そう 2年前の水害に遭われたのです。「でもここに来れば会えるから…」その言葉にどれ程の愛情と想いが込められていたか……(涙) スタッフはパソコンの膨大な写真の中から「この子」を見つけ出しご家族に送らせてもらいました。

メディアも山陽新聞、テレビせとうち、OHK テレビが取材に入り「ニュースを見て来ました」と言われる方も多くおられました。

(様式第8号)

今回は昨年 岡山県立大学デザイン学部で作成された学生さんたちによる啓発ポスターも展示されました。

また会場には昨年百間川土手で保護され脳障害のため現在は寝たきりとなっている1才の子猫も参加し「人としての責任」を問いかけました。

2日間の来場者は500名を越え62組の里親さんが来ていただきました。
「終生飼養」などという言葉が無くなり、当たり前前に全てのペット達がお空に帰るまで家族として大切に慈しんで暮らせるその日が来ることを祈ります。



△会場のようす



△収容施設の犬猫と殺処分数などの「悲しい現実エリア」



△譲渡され幸せになった子達のパネル（里親様より送られた写真）



△卒業した犬たちも里親さんに連れられて来場 とても満ち足りた表情です

ア.-2 啓発、周知活動のための「動画制作」

保護犬、保護猫の実情や会の活動を広く知らせるための動画制作を行い、今後の告知活動、講演の素材として今後使用していく。

制作にあたり「クラウドファンディング」による告知を行い、多くの人に保護犬・保護猫やボランティア団体の実情を訴え、知っていただく機会とした。

クラウドファンディング開始時の目標金額は動画作成費の 300,000 円としていたが、予想をうまわる多くの人に知ってもらい多くの支持を得ることが出来た。

Campfire(FAAVO 岡山)

犬猫の保護・譲渡活動のリアルを伝え、この活動をずっと未来へつなげたい！！

<https://camp-fire.jp/projects/view/333387>

(プロジェクト実績)

期 間 2020年10月29日～2020年11月30日 33日間

支援総額 1,124,500円

支援者数 120人

(プロジェクト導入文)

大切な命を1匹でも多く救いたい.....保護犬・保護猫を行政機関から保護し、その子を生涯大切にしてくれるであろう里親さんへの譲渡を行う「NPO法人 犬猫愛護会わんぱーく」。その活動をもっと多くの人たちに知っていただき、これからも活動を継続していくため支援を募るきっかけとしたいと思っています。

1. 講演「命の授業」

新型コロナウイルス感染拡大予防のため実施せず

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

いままで保護犬保護猫の愛護活動への接点のない多くの人にもパネル展への来場をしてもらったり、クラウドファンディングを通じて関心をよせてもらえるようにするため、新聞・テレビなどのメディアに取材を依頼し、配信してもらった。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

パネル展では、一般の店舗で開催したことから、保護犬保護猫の愛護活動に初めて触れる人との接点を持つことが出来、愛護活動の認知をひろげることができた。また、コロナ禍で人の移動が制限される中で、クラウドファンディングによるネットでの情報拡散は大いに役立った。また、制作した動画についてもインターネットでの配信などにより、今後の啓発活動や告知活動に力を発揮していくものと考えている。

4. 今後の課題と展望

新型コロナウイルス蔓延下でのニューノーマルの生活様式の中で、愛護活動に伴う犬猫譲渡会や啓発活動も新たな方法を模索していく必要がある。

インターネットを利用したオンライン配信やウェブサイト・SNSでの告知にも重きを置き、今後も一層多くの人目に留まり、犬猫をとりまく問題解決のための意識変容を起こしていけるよう積極的に行動を起こしていきたい。

そのための活動資金、人材の確保も大きな課題であり、それらについても今回のプロジェクトをきっかけに積極的な呼びかけを継続的に行っていきたい。